

談話の展開を合図する談話標識

松 尾 文 子

要 旨

談話の展開を合図する談話標識を、話題の展開と、会話の順番取り (turn-taking)/ 発言権の視点から考察する。さらに、聞き手の注意を喚起する attention marker と逆接・対比を表す談話標識が談話の展開を示す機能を持つこと、談話標識で相手の発話を促して談話を展開させる場合があることを述べる。

キーワード：談話標識 話題の展開 発言権 会話の順番取り

1. はじめに

まず、以下のやり取りを見よう。海洋学者のマイクが留守番電話に入っていたメッセージを船上で聞いている場面で、ザヴィアは海洋地質学者である。anyhow が5度用いられ、談話の展開を示す様々な機能を果たしている。

- (1) “Hi Mike, hell of a show! …” … “^①Anyhow, Mike,” the message went on, “tonight was incredible. …” … Xavia’s razor voice came on the machine. “Mike, Xavia, you’re a God, yada yada. ^②Anyhow, in addition to baby-sitting the ship, the crew has asked me, in my role as on board bitch, to do everything in my power to keep you from turning into a conceited bastard, which after tonight I realize is going to be difficult, but I had to be the first to tell you that you made a boo-boo in your documentary.…” She laughed. “^③Anyhow, it’s nothing, a minuscule point about meteorite petrology.…” She laughed again. “^④Anyhow, I’m not much of a party animal, so I’m staying onboard. Don’t bother calling me; I had to turn on the machine because the goddamned press have been calling at night. You’re a real star tonight, despite your screwup. ^⑤Anyhow, I’ll fill you in on it when you get back. Ciao.” The line went dead.—Brown, *Deception* (「やあマイク、(NBCの番組は) 大した番組だったぜ! … (冗談)」… 「^①とにかく、マイク」メッセージは続い

た。「今夜はびっくりだったよ。…(冗談)」… (ザヴィアに電話を代わって) ザヴィアのきびきびした声が聞こえた。「マイク、ザヴィアよ。あなたはまさに神様、いやそれ以上だわ。②それはそうと、船のお守以外に乗組員に頼まれたのよ。同じ船内の意地悪女の役割として、あなたがうぬばれ野郎にならないように全力を尽くせてね。今夜の番組の後では言いにくいのは分かっているんだけど、ドキュメンタリーであなたがヘマをやらかしたことを私が最初に伝えなきゃと思ったのよ。… (冗談)」彼女は笑った。「③そんなわけで、大したことじゃないけど、隕石岩石学のことで、(ドキュメンタリー番組の内容に)ほんの小さな間違いが1つあったのよ。… (冗談)」彼女は再び笑った。「④とにかく、私はパーティが大して好きじゃないから船にいるわ。面倒だから電話しないでね。マスコミの連中が夜にずっと電話をかけてくるから、留守番電話にしておいたのよ。ヘマをやらかしたけど、今夜のあなたは本物のスターよ。⑤いずれにせよ、戻ってきたら詳しく教えるわ。チャオ」電話は切れた。))

まず、電話にメッセージを吹き込んだ主がマイクが出演した番組を褒めた後、冗談を飛ばす。①anyhow で話題を転換して、褒め言葉に戻る。さらに冗談が続いた後、話し手はザヴィアに代わり、褒め言葉が続く。そして②anyhow で話題を転換して本題となる重要事項が述べられる。再び冗談に話題が逸れた後、③anyhow で本題に戻る。さらにまた話題が逸れて冗談に、その後④anyhow で話題を転換、一連の談話の終結が⑤anyhow で合図される。仲間内の一見したところまとまりのない談話であるが、anyhow によって話題がどのように展開しているのかが分かりやすくなっている。

このような談話の展開を合図する談話標識を、話題の展開と、会話の順番取り (turn-taking) / 発言権の視点から考察する。両者は必ずしも独立した視点ではなく、相互関係が認められる。たとえば、話題の展開の視点から turn の冒頭で新しい話題を導入したり本題を切り出すことは、話者交替の視点からすると当該の話し手が発言権を獲得することを意味する。また、turn や一連の談話の締めくくりを談話標識で合図することは、話者交替の視点からすると話の継続を中止して発言権を放棄して一連のやりとり自体を終わらせるか、相手に発言権を譲る意思を示すことになる。

本論では話題の展開を以下のタイプに分類する。

- ① 談話の切り出し：一連の談話の冒頭で会話を開始したり、沈黙などの後に再び会話を再開する場合
- ② 話題転換：新しい話題の導入、本題の導入、本題からの一時的な逸脱、サブトピックの導入
- ③ 本題回帰：一旦別の話題に逸れた後、本題に戻る場合

④ 終結：一連のやり取りを終結させる。

これらの中で、①と④、すなわち談話をどのように始めて、どのように終わらせるかが会話の運営において参加者が最も気を使うところであり、会話の順番取り / 発言権と密接に関係している。会話の順番取りに直接的に関る談話標識は、①と④で用いられるものである。

さらに、聞き手の注意を喚起する attention marker と逆接・対比を表す談話標識が談話の展開を示す機能を持つこと、談話標識で相手の発話を促して談話を展開させる場合があることを述べる。

2. 会話の順番取り (turn-taking) / 発言権に関係し、談話の切り出しで用いられる談話標識

発言権を獲得するために一連の談話や turn の冒頭でしばしば用いられる談話標識に so がある。

(2) It was Molly who finally took the initiative. “So,” she said, offering her hand. “It’s good to see you again.”—Cristofer, *Love* (ついに主導権を取ったのはモリーだった。手を差し出しながら「で、またお会いできて嬉しいわ」と言った。)

(3) Silence enveloped the room. It was Jean-Pierre who broke it again: “So what do you suggest, Professor,” he said sarcastically.—Archer, *Penny* (沈黙が部屋を包み込んだ。再び沈黙を破ったのはジャン-ピエールだった。「で、どうしようというのですか、教授？」と皮肉たっぷりに言った。)

(2) では took the initiative, (3) では broke it (=silence) で分かるように、話し手は so によって発言権を獲得している。

so は時に、談話戦略的に場面の冒頭で用いられることがある。so は元来指示的な意味や結論を導く機能を持つので、通例は so が指し示す先行発話や状況がある。場面の冒頭で用いられる場合は、so によって話し手は指し示す情報や状況を聞き手と共有していることを暗示する。話し手が聞き手に対して、「あなたとの共有知識があるので、それを思い起こしてください」と暗に伝えることで、発話の場面に聞き手を引き込むことが出来る (松尾 2011:76)。次例は、映画のあるシーンの冒頭である。邸宅に上流階級を招いたパーティを催したホスト役である貴族の書齋に、妻の妹ルーザが入って来た。

- (4) LOUISA : So, who's the funny little American?—*Gosford* [映画台本] (「で、あのおかしな背の低いアメリカ人は誰ですか?」)

so によって話し手のルイーザと聞き手に共有知識があることだけでなく、映画を見る側は問題になっているアメリカ人が先のシーンに登場したか、聞き手である貴族の頭の中にその存在があることが分かる。the funny little American の定冠詞 the にも注意されたい。

発言権を獲得する際にしばしば well も用いられる。well は話し手のためらいの気持ちや熟考を示すことがあるが、この特徴が well による発言権獲得に反映される。次例は私(探偵)が依頼者のパットンを訪ねた場面、パットンが相手の名前に関する話をした後のやりとりである。

- (5) Patton went around his desk and sat... “Well,” he said after a time. I smiled. “Well,” he said again. “I guess there’s nothing to do but purge right in.”—Parker, *Family* (パットンは机の向こう側に戻って座った。…「さてと」ややあって彼は切り出した。私はほほ笑んだ。すると彼は「さてと」と繰り返し、「そろそろ本題に入ろうか」と言った。)

沈黙の後に well で新たな turn を開始する意思を表明すると同時に相手の反応を伺う。相手はほほ笑むだけで何も言わなかったので、本題に入る前置き表現として well を繰り返す。

3. 話題の転換を合図する談話標識

もっぱら話題の転換や、導入する話題を明示する機能を持つ談話標識がある。次例は、詐欺師に騙し取られた 100 万ドルのうち、約 50 万ドルが未回収だという話に続くやり取りである。

- (6) “*Incidentally*, Robin, however did you manage to spend \$73.50 on dinner last Wednesday night? What did you have, caviar and champagne?” “Something a little out of the ordinary,” admitted Robin. “It seemed to be called for at the time.”—Archer, *Penny* (「ところでロビン、こないだの水曜の晩の食事に一体どうやって 73 ドル 50 セントも使ったんだ? キャビアとシャンペンでも注文したのかい?」「ちょっとばかり豪勢なものをね」とロビンが認めた。「あの時は必要だと思ったからね」)

incidentally で水曜の晩の食事に話題を転換している。

次例では、まず so で話題を転換し、次の turn で speaking of でこれから述べる話題を明示している。ジェーンのアパートに妹のテスがやって来た。ジェーンはテスに自分の仕事の話をする

るが、テスは話も聞かずにローションを手に塗りつけている。

- (7) JANE : Yeah. Never mind. It's not really your thing. So, um, how long you stain' for?
 TESS : Um, a week or two'casue the fall fashion shows are done, so I don't have much work.
 JANE : *Oh, speaking of* work, I am meeting up with some people from the office tonight for a party. You wanna come?
 TESS : Actually, I'm having drinks with some friends from Milan.—*Dresses* [映画台本] (「いいわ、気にしないで。興味ないわよね。で、そのう、どれ位ここに居るの?」「そうねえ、1、2週間かしらね。秋物のファッションショウが終わってそんなに仕事もないから」「あそうだ、仕事と云えば、今夜オフィスの仲間が集まってパーティをするのよ。あなたもどう?」「実はミラノの友だちと飲みに行くことになってるの」)

ジェーンは so で話題を転換しようとするが、興味のなさそうなテスを見てすぐにことばが続けられず、フィラーの um で発言権を維持しておいてから質問する。テスの答に続けて、ジェーンは attention marker の oh と speaking of で新たな話題を導入する。

一連の談話で本題を導入する合図として機能する談話標識がある。次例は、近所に住む友人同士の会話である。

- (8) “How's Bev?” “She's having a good day, thanks. We started to come over and see Blair, but the snow started. So, how's the fiancé?”—Grisham, *Christmas* (「(奥さんの) ベヴは元気かい?」「今日は調子が良かったよ、ありがとう。僕たち2人でうかがってブレアに会うつもりだったんだけど、雪が降り始めたので。で、(ブレアの) 婚約者はどんな人だい?」)

話し手は相手の娘ブレアの婚約者のことをかねてから知りたかった。そこで、so で本題を導入している。この用法ではしばしば疑問文を伴う。なお、so で導入される事柄は今しがた話し手の心に浮かんだものではなく、幾分かの間話し手の心に留まっていたことである傾向がある (Bolden 2006: 663; 2008: 318)。¹

次は now で本題を導入する例である。

- (9) “He sent me to talk business, and you're here to talk business. So let's talk.” “Okay.

Keep your voice down, and if anybody comes down the aisle, grab my hand and stop talking. Act like we're married or something. Okay? *Now*, Mr. Voyles—do you know who he is?”—Grisham, *Firm* (「彼は私にビジネスの話をしに行かせて、あなたはビジネスの話をしにここに来た。それなら、話を始めましょう」「分かった。声を小さくして。誰かが通路をこちらにやって来たら、私の手を握って話をやめて下さい。夫婦か何かのふりをするんです。いいですね？ さて、ヴォイルズ長官の話では一、彼が誰か知っていますか?」)

話し手は聞き手に指示を出してそれを理解したかを *okay* で確認してから、*now* で本題であるヴォイルズ長官の話を持ち出そうとする。現在時を表す副詞 *now* が表す「今、現在」を強調することで、これから述べる新しい話題に集中するように聞き手に注意を喚起して、本題を導入する (Schourup 2011)。

次例は、エミリがアンディに家の鍵を渡した後のやり取りである。

(10) EMILY : Guard this with your life.

ANDY : Of course. You know, i... if I can deliver the Book, then that means I must've done something right. I'm not a psycho. Oh, and you know, she called me Andrea? I mean, she didn't call me Emily, which is... Isn't that great?

EMILY : Yeah, whoopee. *Now*, it's very important that you do exactly what I'm about to tell you.—*Devil* [映画台本] (「何があっても失くさないで」「もちろんよ。ねえ、も... もし私が '本' を届けられるなら、きっと私はちゃんと仕事をしたことよね。もう精神病患者者じゃないわ、あぁ、それから私のこと (それまでは上司は名前を間違えて呼んでいたのに) 'アンドレア' って呼んだでしょ? つまり、'エミリ' って呼んだんじゃないくて、それって... それってすごくない?」「ええ、すごーい。さてと、これから私が言う通りにすることがすごく大切よ」)

ここでは、話し手のエミリはアンディの上司に認められた感激の気持ちにひとまず応答して、それから話題を本題に移行させている。このように、*now* は進行中の行為から新たな行為に移ることを示す機能を持つ (Schourup 2011)。

次は *anyway* で本題を導入する例である。

(11) KATHERINE : It's an outline of your idea for a Trask radio acquisition.

TESS : Oh?

KATHERINE : I was planning to send it over to Jack Trainer to have a look...*Anyway*,

the point is, Tess, that I'm still trying to get you heard.—*Girl* [映画台本] (「これはトラスクのラジオ買収に関するあなたのアイディアの要約よ」「あら?」「ジャック・トレーナーに見てもらうために、これを送るつもりだったの。…ともかく、重要なのはね、テス、私はまだあなたの意見を聞くつもりだってことなのよ」)

anyway には直前の話題に区切りをつける機能がある。ここでは anyway によって先行部分に区切りをつけて、the point is で分かるように本題を導入している。

次は by the way の例である。by the way は文字通り「これまで論じていた話題から逸れる」ことを表すが (Schourup & Waida: 60)、導入される発話が本題であることもある。ラマーは弁護士、ミッチは様々な法律事務所からスカウトされている優秀な弁護士の卵で、オリヴァーはミッチが声をかけられている法律事務所の先輩である。ミッチはどの事務所で働こうか思案している最中であるが、オリヴァーはミッチを雇いたい。

(12) LAMAR : Marty was... his twin girls are a month older than our son.

MITCH : I'm very sorry, Lamar.

LAMAR : Oh, uh, *by the way*, Oliver wanted me to tell you... you shouldn't be burdened with a student loan.

MITCH : Excuse me?

LAMAR : If you bring the papers by tomorrow, the firm will repay it for you.—*Firm* [映画台本] (「(亡くなった) マーティは...彼の双子の娘はうちの息子より1カ月大きいんだ」「本当に気の毒だと思うよ、ラマー」「あぁ、そうだ、ところで、オリヴァーが君に話してくれて...学生ローンを負担する必要はない」「えっ?」「明日までに書類を持って行けば、事務所が君の代わりに返済してくれるよ」)

今しがた何かを思い出したことを表す oh や、少しばかりのためらいを表す uh という attention marker を先行させてはいるが、by the way で導入されるのはラマーがミッチに伝えたい重要事項である、ここでは oh や uh を用いることで、いかにもさりげなく本題を持ち出そうとする話し手の意図が感じられる。

次も by the way の例で、ジョージがジェーンの方へやって来て言った言葉である。

(13) GEORGE : Hey, Jane. Look. *By the way* did you get that thing I left on your desk this morning?

JANE: O-On my desk?—*Dresses* [映画台本] (「ねえ、ジェーン。ちょっと。そう言えば、今朝君のデスクに置いといたあれ、見てくれた?」「わ、私のデスクに?」)

ここでは *by the way* は談話の冒頭で用いられ、これまで論じていた話題はない。呼びかけ語の Jane と attention marker の look で聞き手の注意を喚起しておいて、本題を導入している。

転換された話題が、話の流れから逸脱することがある。*by the way* は、これまで論じていた話題から逸れて、話し手が計画なしに思いつきで余談的に情報を提示する場合にも用いられる (Schourup & Waida: 60)。

- (14) “This is the first psychiatrist’s office I’ve ever been in,” Angeli said, openly impressed. “I wish my house looked like this.” “It relaxes my patients,” Judd said easily. “And *by the way*, I’m a psychoanalyst.” “Sorry,” Angeli said.—Sheldon, *Face* (「精神病医の診察室は初めてですよ。私の家もこんなだったらいいんですが」アンジェリは感銘を受けたことを率直に態度に表して言った。「患者がリラックスできるようにしているのです。ときに、私は精神分析医なんですけどね」ジャッドは軽い調子で言った。「すみません」とアンジェリは言った。)

ジャッドはアンジェリの発言に対応した後、*by the way* 以下で相手の間違いを訂正している。*said easily* から分かるように、*by the way* を用いることによって、ふと思いついて間違いを訂正しているニュアンスを生じさせている。

話題を転換するが全く無関係の話題を導入するのではなく、当該のやり取りで話されているメインピックに関するサブピックが述べられることがある。*now* にはこのようなサブピックを導入する機能がある。次例は新人弁護士に向かって同じ法律事務所のシニアパートナーが話す場面である。エイヴァリーはこの新人弁護士の上司で、1行目の *him* はエイヴァリーが病気のため、2カ月間だけ上司となる人物である。

- (15) “Good. I think you’ll get along fine. Try and see him sometime this morning. *Now*, Avery had some unfinished business in the Caymans. He goes there a lot, as you know, to meet with certain banks. In fact, he was scheduled to leave tomorrow for a couple of days. He told me this morning you’re familiar with the clients and the accounts, so we need you to go.”—Grisham, *Firm* (「良かった。君たちなら上手くやって行けると思う。午前中に彼に会いに行ったらどうだ? それでだ、エイヴァリーはケイマン島にやり残した仕事があるんだ。君も知ってるだろうが、よく例の銀行家たちに会いに行っているんだ

よ。それに実際、明日から2日間出張する予定だった。今朝電話があって、君が依頼人と口座のことをよく知ってるということだった。だから君に（ケイマン島に）行ってもらう必要がある」)

新人弁護士の現在の上司が病気であるため、その対応がサブピックとして述べられている。1つ目は引用部の前で、2カ月間別の上司が病気の上司の仕事を引き継ぐので、彼のもとで働くように伝えられる。2つ目が now 以下で述べられているケイマン島へ行けということである。

4. 本題回帰を合図する談話標識

1度持ち出した本題から話題が逸れた後、本題に戻る際に用いられるのが *anyway* で、しばしば *so* と共起する。² 次例のサラとメイコンは離婚寸前の夫婦である。サラは早く別居状態に終止符を打ち、離婚の法的な手続きを済ませたい。その話をしていた途中で、昔の交友関係や亡くなった子どものことなどに話が逸れる。そして最終的に彼女は次のように言う。オルブライトは彼女の弁護士である。

(16) Sarah pulled her coat on, making a sloppy job of it. One corner of her coat was tucked inside. “So *anyway*,” she said. “this is what I wanted to tell you: I’m having John Albright send you a letter.”—Tyler, *Tourist* (サラはコートを引っ張るようにだらしなくはおった。一部が内側にたくし込まれていた。「で、とにかく」彼女は言った。「私があなたに言いたかったのはこういうことよ。ジョン・オルブライトにあなたへ書類を送ってもらうつもりよ」)

so anyway を合図に、話題は本題の離婚手続きに戻る。これから重要な事柄を述べるのが、*this is what I wanted to tell you* によって明示されている。

次例では、*anyway* が *okay* と共起している。トンネルの大きな縮尺模型を見ながら説明する場面である。

(17) BASSETT: Look at this thing. When they glued this together, they were still fighting World War One. *Okay, anyway*. Here’s the North Tube, South Tube, river, the riverbed. Here’s the tunnel, a rectangle set inside each tube.—*Daylight* [映画台本] (「これを見てくれ。これを組み立てた頃は、まだ第一次世界大戦で戦っていた。いいかい、ともかく。ここが北トンネル、南トンネル、川、川底。

ここがトンネル、各トンネルの中は長方形になっている」)

まず模型に注目させ、模型に関する背景情報を述べ、再び模型に注目させる。attention marker の okay で聞き手の注意を喚起して、anyway で直前の模型に関する背景情報に区切りを付けて本題に戻っている。

5. 談話の終結を合図するもの

会話において、一連の談話をどのように終結させるかは話し手にとって重要なことである。会話の順番取りの観点からすると、話し手は自分の発話で一連の会話を終わらせる心づもりであったり、自分の発言を終えて次の話し手に発言権を譲り、引き継いで欲しい場面である。so はしばしば談話の終結の合図として機能する。

(18) “So that’s it,” Vincent Lord concluded ten minutes later.—Hailey, *Medicine* (「ということで、僕の言いたいことはこれで全部です」 ヴィンセント・ロードは10分後に話を終えた。)

concluded からも明らかなように、話し手は so 以下の発話で一連の談話を終結させている。so には結果を導入する機能があり、それが談話の構成のレベルで用いられると、一連の流れを締めくくる機能を担うようになる。

会話を終結させる試みは、必ずしも成功するとは限らない。例を見よう。連邦裁判所の2人の執行官がマークという少年を未成年者短期拘留所に訪ねて来た。少年に対する処置が述べられてそれに少年が応じる。

(19) “What are they?” he (Mark) asked nervously. “It’s a grand jury subpoena, …” …
 “Have you told my mother?” “Well, you see, Mark, we’re required to give her a copy of these same papers. We’ll explain everything to her, and we’ll tell her you’ll be fine. In fact, she can go with you if she wants.” “She can’t go with me. She can’t leave Ricky.” The marshals looked at each other. “Well, anyway, we’ll explain everything to her.” “I have a lawyer, you know. Have you told her?” “No. We’re not required to notify the attorneys, but you’re welcome to call her if you like.” “Does he have access to a telephone?” the second one asked Telda. “Only if I bring him one,” she said. “You can wait thirty minutes, can’t you?” “If you say so,” Telda said. “So, Mark, in about thirty

minutes you can call your lawyer.” Duboski paused and looked at his sidekick. “Well, good luck to you, Mark. Sorry if we scared you.” They left him standing near the toilet, …—Grisham, *Client* (「それ (=書類) は何ですか？」彼は神経質そうに尋ねた。「大陪審への罰則付き召喚令状だ。…」 …「お母さんには話したのですか？」「ええと、あのねマーク、お母さんにはこの同じ書類のコピーを渡すことになっている。全部説明しておくよ。君が元気なこともね。実のところ、お母さんが希望すれば君と一緒に行って構わないだよ」「お母さんには無理です。(弟の) リッキーを残して行けませんから」執行官たちは顔を見合わせた。「ま、ともかく、お母さんには全部説明するよ」「ぼくには弁護士がいるんですよ。彼女にはもう話したのですか？」「いや。弁護士に通達することを要請されていない。しかし、望むなら弁護士に電話しても構わないよ」「この子は電話を使う権利があるのか？」ともう1人の執行官がテルダに尋ねた。「私が持って来れば」と彼女は答えた。「30分待ってもらえるかな？」「そうおっしゃるなら」と彼女は答えた。「ということで、マーク、30分ほどしたら弁護士に電話してもいいよ」デュボスキは一息ついて相棒に目をやった。「じゃあ、幸運を祈ってる、マーク。怖がらせてすまなかった」彼らはマークをトイレのそばに立たせたまま出て行った…。)

執行官は well, anyway でこの話題の終了を意図するがうまく行かずに話が続く。その後 so でマークが弁護士と話すことに関する結論が述べることによって、一連の会話を終了する段階に到り、さらに well 以下の発話で会話を終結させる。

6. 談話の展開を合図する attention marker

look, oh, okay, now, well などの聞き手に注意を喚起する attention marker によって発言権を獲得して、新たな話題を導入することがある。³ 次は okay の例である。

(20) There was a knock at the door. “Who is it?” she asked. “It’s your copier,” a voice answered. She unlocked the door and opened it. A short, hyperactive little man named Gordy rushed in, looked around the room and said rudely, “Okay, where do you want it? “In there,” Tammy said.—Grisham, *Firm* (ノックの音がした。「どなた？」彼女は尋ねた。「コピー機の配達です」と答えがあった。彼女はカギを開けて、ドアを開いた。ゴードィという名前の背の低い元気いっばいの男が飛び込んで来て、部屋を見渡してぶっきらぼうに言った。「さて、どこに置きますか？」「あっちに」タミーは答えた。)

okay によってオフィスの部屋を眺めて次の動きに移る準備が終了したことを自ら了承して、新たな話題を導入している。

次は発話の状況を受けて、now で発話を導入する例である。ルーシーはコンピュータのマックブック 3 台のある部屋に 1 人である。それぞれの画面が 4 分割されていて、何らかの画像が映し出されている。

(21) Lucy got interested in a website address that had begun to flash in a quadrant of one of the MacBooks. “Now what are we up to?” she said to the empty living room of the town house.—Cornwell, *Factor* (マックブックの 1 台の 4 分の 1 を占めるウィンドウで点滅し始めたウェブサイトのアドレスに、ルーシーは興味を掻き立てられた。「あら、どうしたの?」ルーシーは誰もいないタウンハウスのリビングルームで 1 人つぶやいた。

本来現時の「今、現在」を指す now を用いて、点滅し始めた画面に今しがた気付いたという状況を受けて、「どうしたの?」と話を切り出している。(9)(10)(15) も参照されたい。この他にまた、well の例として (5)(19) を参照されたい。

話題の導入や転換を示す attention marker は単独で用いられるほか、しばしば談話の展開を示す他の談話標識と共起する。

(22) LINUS : I don't mind you smoking in my room, but not in my clothes closet.

OLIVER : It's good for the moths. *Now then*, Linus, what about that girl over the girl over the garage?—*Sabrina* [映画台本] (「私の部屋でタバコを吸うのは構わないけど、クロゼットの中では駄目ですよ」「虫除けにはいいぞ。ところでライナス、車庫の上の女はどうなった?」)

(23) “*Now then*,” Teabing snapped at the boy, “if you would give us some privacy?—Brown, *Code* (「さあ、しばらく我々だけにしてもらえないか」と、ティーピングは侍者に厳しい口調で言った)

上例では、attention marker の now と談話の展開を示す then が共起している。then はこの他に well, oh, okay などと共起する。attention marker と他の談話標識が共起する例として、(7)(12)(13)(17)(19) も参照されたい。

7. 話題の転換を合図する逆接・対比を表す談話標識

逆接や対比を表す談話標識が、話題の転換を示す機能を果たす場合がある。次例は、姪の酒の飲み方を心配する女性と、その友人の会話である。

- (24) “Is there alcoholism in her family?” “I’m beginning to think there’s alcoholism in everybody’s family,” I said bitterly. “*But yes. Her father was an alcoholic.*”—Cornwell, *Farm* (「彼女の家族にアルコール依存症の人はいるの?」「何だか誰の家族にもアルコール依存症がするような気がして来たわ」と私は苦々しい気持ちで言った。「でも、ええいるわ。父親がそうだったの」)

友人の「家族にアルコール依存症の人はいるか」という問に対して、話し手は前件で問に対する答ではなく自分の意見を述べ、後件では再び問に対する応答という先行する話題に戻して yes と答えている。

逆接や対比を示す談話標識は、先行発話とは対比的な、あるいは先行発話からは予想外の事柄を述べることを表すことから、談話構成のレベルで用いられると、話題や談話の流れの再方向付けの機能を持ち、話題を転換することになる。この用法は、actually, in fact, though などでも見られる。

8. 相手に発言を促す談話標識の使用

談話標識を単独で用いて相手に発言を促すことがある。次例は、新人弁護士のミッチとダイビングログを経営するエイバンクスの会話である。

- (25) “Are you looking for me?” It was almost a sneer. “Are you Mr. Abanks?” “That’s me. What do you want?” “I’d like to talk to you for a few minutes.” He gulped his beer and gazed at the ocean. “It’s too busy. I have a dive boat leaving in forty minutes” “My name is Mitch McDeere. I’m a lawyer from Memphis.” Abanks glared at him with tiny brown eyes. Mitch had his attention. “So?” “So, the two men who died with your son were friends of mine. It won’t take but a few minutes.”—Grisham, *Firm* (「俺を探してるんだって?」冷ややかと言っていいような口調だった。「エイバンクスさんですか?」「そうだ。何の用だ?」「少し話がしたいんです」彼はビールをゴクッと飲むと海を見つめ

た。「忙しいんだ。40分後にはダイビング用の船を出航させることになってる」「僕の名前はミッチ・マクディーアで、メンフィスから来た弁護士です」エイバンクスは茶色い小さな眼で彼を睨みつけた。ミッチは彼の注意を引くことができた。「それで?」「それで、あなたの息子さんと一緒に亡くなった2人の男は私の友人なんです。ほんの数分で話は終わりますから)」

素性が分かって訪問者に興味を持ったエイバンクスは、「それで (何が言いたいのか)?」と相手に発言を促し、ミッチもそれを受けて so で発言を続ける。

次例は女探偵と友人の会話である。

- (26) “I’m working with a police detective on the men who came to my place. Brian says he can leave Millicent out of it for now. But I haven’t told him about Millicent’s mother.”… “*Because?*” Julie said. “*Because* I have to know more about what’s going on, before I put her in the position of testifying against her own mother.” “Brian’s the police detective?” “Uh huh.” “Brian?” “Yes.” “He cute?” Julie said. “Quite.” “*And?*” “*And* we had lunch the other day and I enjoyed it,” I said. “*And?*” “*And* we’ll see.”—Parker, *Family* (「私の家にやって来た男のことで刑事と調査してるの。ブライアンは当分は (私が関わっている家出娘の) ミリセントのことは外に出ないようにできるって言うてる。でも、彼女の母親のことはまだ彼に話してないの」…「どうして?」ジュリーは言った。「どうしてって、母親に不利な証言をさせる立場に彼女を置く前に、起こっていることをもっと知っておかないといけないの」「ブライアンってその刑事?」「うん、まっね」「ブライアン?」「そうよ」「彼、いい男なの?」とジュリーは尋ねた。「まっね」「で?」「で、こないだ一緒にお昼を食べて楽しかったわ」と私は答えた。「それで?」「それで、また会うことになってる」)

話し手は談話標識を用いることで相手に発言を促し、相手はその談話標識を引き取って発話を続けている。

このように、談話標識を単独で通例疑問形で用いて相手に発言を促すことで、話し手は自分の思う方向に談話を展開させることができる。発言権から見ると、うまく発言権を相手に譲ることで談話を展開させている。

9. おわりに

談話の展開を合図する談話標識が用いられなくても、話し手が伝えたいメッセージ（命題内容）に影響はない。しかしこれらの談話標識がなければ、談話の流れや話題の移り変わりが不明確であるし、何より突然新たな話題が導入されたり、前置きなしに本題が述べられたり、一連の談話が前触れもなく終了したりといった唐突感が生じてしまう。これらの談話標識は、談話の構造の明確化ばかりでなく、会話の順番取りにも貢献する。また、談話標識を単独で通例疑問形で用いて相手に発言を促すことで、話し手が自らの発言権を獲得するのではなく、戦略的に相手に発言権を与えて談話を展開させることがある。

注

- 1) oh も話題を導入するのに用いられるが、oh は後続発話が今しがた話し手の心に浮かんだり、認識したり気付いたりしたことである傾向がある (Bolden 2006: 663; Bolden 2008: 318)。
- 2) この場合、通例 so の後に休止が置かれ、下降音調になる (Bolden 2008; Ball: 99)。
- 3) この他に、no が話題の転換の機能を持つことがある。先行の話題に戻る場合には、しばしば non-serious discourse から移行する joke-to-serious pattern を示す。話題の転換を示す but, so, oh well などの他、yeah とも共起する (Lee-Goldman 2011)。

参考文献

- Ball, W. J. 1986. *Dictionary of Link Words in English Discourse*. New York: Macmillan.
- Bolden, G. B. 2006. "Little words that matter: Discourse markers 'So' and 'Oh' and the doing of other-attentiveness in Social Interaction." *Journal of Communication* 56, 661-88.
- . 2008. " 'So what's up?': Using the discourse marker So to launch conversational business." *Research on Language and Social Interaction* 41(3), 302-37.
- Lee-Goldman, R. 2011. "No as a discourse marker." *Journal of Pragmatics* 43, 2627-49.
- 松尾文子. 1993. 「談話接続語としての so」衣笠忠司, 赤野一郎, 内田聖二 (編)『英語基礎語彙の文法』191-202. 東京: 英宝社.
- . 2008. 「談話辞 actually の機能の展開」『論集』41, 78-88. 梅光学院大学.
- . 2010. 「談話標識の特質: 単独で用いられる談話標識を手がかりに」『論集』43, 43-54. 梅光学院大学.
- . 2011. 「談話標識の談話戦略的使用」『論集』44, 63-79. 梅光学院大学.
- . 2012. 「談話の構造と談話標識」『梅光言語文化研究』3, 1-16. 梅光学院大学国際言語文化学会.
- Schourup, L. C. 2011. "The discourse marker now: A relevance-theoretic approach." *Journal of Pragmatics* 43, 2110-29.
- Schourup, L. C. & T. Waid. 1988. *English connectives*. 東京: くろしお出版.

引用作品

(小説)

- Archer, Jeffrey. 1976. *Not a Penny More, Not a Penny Less*. Pan Books. [*Penny*]
Brown, Dan. 2001. *Deception Point*. Pocket Books. [*Deception*]
—. 2003. *The Da Vinci Code*. Doubleday. [*Code*]
Cornwell, Patricia. 1994. *Body Farm*. Warner Books. [*Farm*]
—. 2009. *The Scarpetta Factor*. Sphere. [*Factor*]
Cristofer, Michael. 1985. *Falling in Love*. Grafton Books. [*Love*]
Grisham, John. 1991. *The Firm*. Island Books. [*Firm*]
—. 1993. *The Client*. Island Books. [*Client*]
—. 2001. *Skiping Christmas*. Dell Books. [*Christmas*]
Haily, Arther. 1984. *Strong Medicine*. Dell Books. [*Medicine*]
Parker, Robert. 1999. *Family Honor*. Berkley Books. [*Family*]
Sheldon, Sidney. 1970. *The Naked Face*. Fontana. [*Face*]
Tyler, Anne. 1985. *The Accidental Tourist*. Penguin Books. [*Tourist*]

(映画台本)

- Daylight*. 2001. スクリーンプレイ出版. [*Daylight*]
The Devil Wears Prada. 2008. 株式会社スクリーンプレイ. [*Devil*]
27 Dresses. 2009. 株式会社フォーインスクリーンプレイ事業部. [*Dresses*]
The Firm. 1997. フォーインクリエイティブプロダクツ. [*Firm*]
Working Girl. 1989. フォーインクリエイティブプロダクツ. [*Girl*]
Gosford Park. 2002. 株式会社スクリーンプレイ. [*Gosford*]
Sabrina. 1995. 株式会社スクリーンプレイ. [*Sabrina*]